

あつ 集まれ！ 日本全国 **イチバン** じまん



もくじ

北海道・東北地方のナンバーワン

北海道	透明度の高さナンバーワンの湖	4
青森県	高値がついたまぐろナンバーワン	4
岩手県	うるしの生産ナンバーワン	5
宮城県	すずりの生産ナンバーワン	6
秋田県	重要無形民俗文化財の数ナンバーワン	6
山形県	将棋駒の生産ナンバーワン	7
福島県	桐の生産ナンバーワン	8

関東地方のナンバーワン

茨城県	水田や畑の割合ナンバーワン	10
栃木県	かんぴょうの生産ナンバーワン	11
群馬県	生糸の生産ナンバーワン	12
埼玉県	節句人形・ひな人形の生産ナンバーワン	13
千葉県	しょうゆの生産ナンバーワン	13
東京都	歴史の長さナンバーワンの花火大会	14
神奈川県	シューマイに使う金額ナンバーワン	15

中部地方のナンバーワン

新潟県	米菓の生産ナンバーワン	16
富山県	薬をつくる工場の数ナンバーワン	17
石川県	雷の多さナンバーワン	17

福井県	油あげに使う金額ナンバーワン	18
山梨県	日照時間の長さナンバーワン	18
長野県	ごみの少なさナンバーワン	19
岐阜県	包丁の生産ナンバーワン	20
静岡県	プラモデルの生産ナンバーワン	20
愛知県	自動車の生産ナンバーワン	21

近畿地方のナンバーワン

三重県	液晶パネルの生産ナンバーワン	22
滋賀県	歴史の長さナンバーワンの駅舎	22
京都府	歴史の長さナンバーワンのトイレ	23
大阪府	毛布の生産ナンバーワン	23
兵庫県	ため池の数ナンバーワン	24
奈良県	くつ下の生産ナンバーワン	25
和歌山県	ジャイアントパンダの数ナンバーワン	25

中国・四国地方のナンバーワン

鳥取県	大きさナンバーワンの池	26
島根県	しじみがとれる量ナンバーワン	26
岡山県	学生服の生産ナンバーワン	27
広島県	筆の生産ナンバーワン	28

山口県	とらふぐの量ナンバーワンの市場	28
徳島県	LEDの生産ナンバーワン	29
香川県	オリーブの生産ナンバーワン	30
愛媛県	祝儀用品の生産ナンバーワン	31
高知県	ゆずの生産ナンバーワン	31

九州地方のナンバーワン

福岡県	たらこに使う金額ナンバーワン	32
佐賀県	板のりの生産ナンバーワン	32
長崎県	広さナンバーワンのテーマパーク	33
熊本県	馬肉の生産ナンバーワン	34
大分県	温泉の湯の量ナンバーワン	34
宮崎県	プロイラーの数ナンバーワン	35
鹿児島県	歴史の長さナンバーワンの写真	36
沖縄県	さとうきびの生産ナンバーワン	37

まだまだある！

九州地方のナンバーワン	36 ~ 37
さくいん	38

マークの見方

4 ~ 37 ページのマークは、その都道府県のどんなナンバーワンを紹介しているかをあらわします。

- 自然・生物**
自然や生きものにかかわること
- 農業・林業**
農業（畜産をふくむ）や林業にかかわること
- 水産業**
水産業にかかわること
- 工業**
工業にかかわること
- 伝統文化**
伝統的な文化にかかわること
- 暮らし**
人々の暮らしにかかわること
- 施設・建物**
施設や建物にかかわること
- 行事**
年中行事やイベントにかかわること
- 交通**
交通にかかわること

まだまだある！

北海道・東北地方のナンバーワン	9
-----------------	---

まだまだある！

関東地方のナンバーワン	14
-------------	----

まだまだある！

中部地方のナンバーワン	20 ~ 21
-------------	---------

まだまだある！

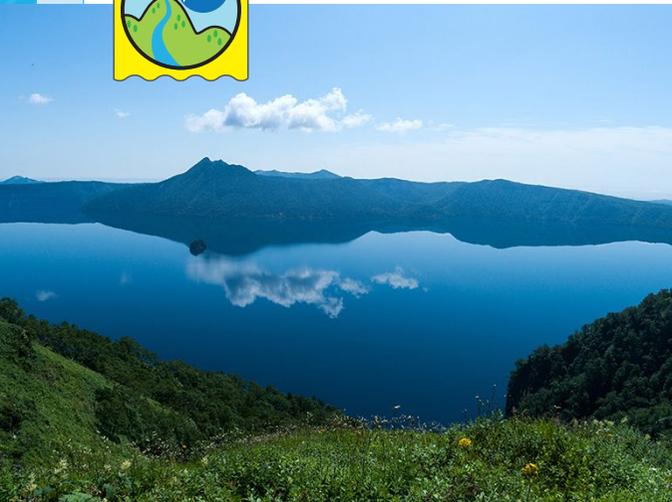
近畿地方のナンバーワン	24 ~ 25
-------------	---------

まだまだある！

中国・四国地方のナンバーワン	30 ~ 31
----------------	---------

北海道・東北地方のワンナンバー

北海道 透明度の高さの湖



▲摩周湖のようなカルデラ湖には、深い湖が多い。その深さと水の透明度によって作りだされる美しい湖面の色は「摩周ブルー」とよばれる。

28mの深さまで見とおせる

海や湖の水の透明度は、水面から見とおせる深さであらわれます。北海道にある摩周湖はその透明度が28.0mと、日本でもっとも高い湖です。

摩周湖の透明度が高い理由のひとつは、そのでき方にあります。摩周湖はカルデラ湖（火山の活動によってできたくぼ地に水がたまってできた湖）で、流れこんでくる河川がありません。河川によって土や砂などが運ばれてくることがないので、水がにごりにくくなっています。

青森県 高値がついたまぐろ

2019年1月5日、東京都の豊洲市場で、青森県で水あげされた278kgのまぐろに、いままでで最高の3億3360万円の値段がつきました。

このまぐろが水あげされたのが、本州最北端のまち、青森県大間町にある大間漁港です。北海道と本州の間の津軽海峡でとれ、ここで水あげされるあぶらの乗ったまぐろは、



▲とれたての新鮮なまぐろを使った料理は、大間町の名物となっている。

岩手県 うるしの生産



▲ウルシに傷をつけ、にじみ出る樹液を手作業で集める。これを、うるしかきという。木が育つには15～20年かかるが、1本の木からとれる樹液はわずか200gほど。



▲浄法寺塗の製造工程。木をけずってつくった器の表面に、ていねいにうるしをぬっていく。

ひとつのまちで 全国の4分の3をしめる

うるしは古くから、素材がくさるのを防ぐことなどを目的に、木工品などの塗装に使われてきた材料です。岩手県は、うるしの生産量が日本でもっとも多い都道府県で、県内の二戸市浄法寺町地区だけで、国内産のうるしのおよそ4分の3にあたる量を生産しています。

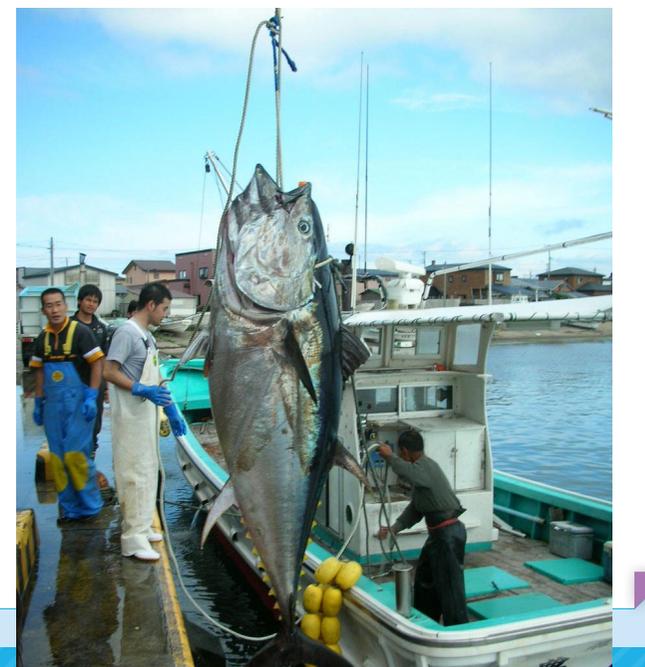
うるしの原料は、ウルシという木の樹液です。浄法寺町地区は、古くからこの木の栽培がさかんな地域でした。浄法寺塗とよばれる漆器（うるしを使った器）づくりもおこなわれ、国の伝統的工芸品に指定されています。



▲光沢をおさえた、かざり気のないシンプルでデザインが、浄法寺塗の特徴のひとつ。

人気のひみつは漁法にあり

大間町の漁師たちは、主に一本づりでもぐろをとります。これは、網を使うより難しく、一度にとれる数が少ない漁法です。しかし一方で、まぐろに傷がつきにくいことや、弱ってしまう前に血を抜くなどの処理ができ鮮度を保ちやすいことなどから、大間まぐろの価値を高める理由にもなっています。



▲大間漁港で水あげされるまぐろの重さは、平均で約100kg。過去には440kgの大物もいた。

近畿地方のワンナンバー

三重県 液晶パネルの生産

スマートフォンには欠かせない

スマートフォン、タブレット、パソコンなどの情報通信機器があたり前のものとなっている現在、それらの画面に使われる液晶パネルは、非常に重要な製品となっています。その液晶パネルの生産が日本一さかんな都道府県が、三重県です。

三重県には、亀山市と多気町の2か所に、大手電機メーカー、シャープのグループ会社の大規模な液晶パネル工場があります。これらの工場では、スマートフォンやタブレット、

パソコン、自動車用など、さまざまな液晶パネルが作られていることが日本一の理由です。



▲多気町にあるシャープディスプレイテクノロジーの三重工場は、東京ドーム7個分の敷地面積をほこる。2020(令和2)年には、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、マスクの製造もはじめたことで話題になった。

滋賀県 歴史の長さ

140年前からある駅舎



▲2階建ての洋風建築の旧長浜駅舎。現在は、長浜鉄道スクエアという博物館の一部となっている。

長浜市の旧長浜駅舎は、1882(明治15)年にできた、現存するなかではもっとも長い歴史をもつ駅舎です。琵琶湖に近いこの駅は、日本初の鉄道連絡船(鉄道を乗りつぐ人を運ぶ定期連絡船)で大津市とむすばれていたことでも知られます。東京都と兵庫県をむすぶ鉄道路線(現在のJR東海道本線)ができるまで、関西方面から東京に行きたい人は、大津市から船に乗ってこの駅へ向かい、鉄道に乗りつぎました。

京都府 歴史の長さ

600年前の大規模トイレ



▲直径30cmほどの穴(右上の写真)がたくさんならぶ東司の内部。実際に使われていたころには、しきりがあってそれぞれが個室の状態になっていたという。

600年前の大規模トイレ

京都府京都市は、長い歴史をもつ寺院や神社がたくさんあるところですが、そのうちの東福寺という寺院には、ある特徴があります。それは、いまからおよそ600年前の室町時代につくられた、現存するなかで日本一古いトイレがあることです。

東司(または東司)とよばれるそのトイレには、百雪隠という別名があります。雪隠とはトイレをさすことばで、この別名は多くの僧が同時に用をたせるということからきています。国の重要文化財に指定されていて、現在は中に入ることはできませんが、100年ほど前までは実際に使われていたといえます。

大阪府 毛布の生産

綿織物の伝統がいかされた



大阪府は、せんい工業がさかんな都道府県で、なかでも毛布は、泉大津市を中心に全国のおよそ90%をうみだしています。

現在の泉大津市では、およそ140年前の明治時代に毛布づくりがはじまりました。当時、毛布はまだ外国から入ってきたばかりでしたが、古くから綿織物づくりがさかんだこの地域では、職人たちが独自に研究を重ね、毛布づくりの技術をみがいていきました。そうした歴史が、いまの日本一につながっています。

▲毛布をつくる工場のようす。牛の毛からはじまって次に綿毛布、100年ほど前から羊毛が素材の中心となった。現在は化学せんいも重要な素材になっている。



◀Qマーク(写真)は、泉大津市とそのまわりの地域の毛布工場が生産する製品のうち、きびしい品質基準に合格したものに付けられる独自のマーク。